

2012 年度

東邦大学看護学部看護学科・河南科技大学臨床医学院
国際学術交流プログラム
来日研修報告書

看護学部

目次

1. はじめに

河南会議大学からの研修を受け入れて

2. 来日研修プログラム

1) 研修生

2) 研修プログラム日程

3. 研修参加者の報告および交流風景

1. はじめに

河南科技大学研修生を受け入れて

2012年10月7日から10月14日までの8日間、中国河南省洛陽にある河南科技大学より3名の研修生を迎えた。河南科技大学とは平成21年に正式に国際交流の覚書を交わし、交流を深めている。

本年度は、看護師の資格をもつ副院長をはじめ副看護部長、外科系総婦長の3名と通訳として趙先生の4名が来日した。

来日した翌日(8日)が「体育の日」で祝日のため、東京を感じていただくために都内観光を企画した。そして9日より13日まで、学内での感染制御学の講義と実習、医療センター大森病院、そして今年のはじめて佐倉病院の見学と看護学部内だけでなく、病院看護部のみなさまのご協力をいただきより充実したプログラムを提供することができた。

特に、今年度のはじめての、中国からの研修生を迎えてくださった医療センター佐倉病院の看護部のみなさまから「せっかく、遠くからいらしたのですから、見学していただけることは最大限していただけるように」と温かい言葉を頂いたことは、プログラムを作成するに当たり、とても心強かった。研修生もその温かさを身をもって体験していた。

大森病院の見学では、研修生の希望を最大限配慮していただき、一般病棟のみならず特別個室、救急外来、救命センター、そして、化学療法室といった特別な病棟、外来を見学させていただくことができたことに、とても感謝していた。

通訳としていらした趙先生には本学教員、さらに大森病院看護部の方に、河南科技大学臨床医学院の歴史、看護教育について講義を頂いた。相互理解を深めるためにも中国での看護教育の一端を知ることは有益であった。

現在、洛陽を象徴する花「牡丹」の大皿が、本学2階の会議室前に飾ってある。牡丹の花言葉のように、今後交流を深めることで、一層気品ある大学として双方が発展していくことができると感じている。さらに牡丹の花のように大きく実りある研修が今後も続けられることを願う。

2. 来日研修プログラム

1) 研修生

副院長

祝晓宇 (zhu xiaoyu)



看護部

副看護部長

袁景茹 (yuan jingru)



外科系総婦長

沈陵 (shen ling)



臨床医学院 准教授

趙傑剛

2) 研修プログラム日程

月日	曜	時間	内容
10月7日	日	20:30	成田到着(MU271)
10月8日	月	9:00～ 17:00	都内はとバス観光 皇居、浅草寺、隅田川下り(水上バス)、東京タワー、お台場など
10月9日	火	10:00～ 11:30	歓迎会・大学紹介 河南科技大学臨床医学院・看護学部の歴史、およびカリキュラム等の紹介 記念写真撮影(アスクレピオン)
		12:00～	昼食会 (BOUNO)
		14:00～ 16:00	感染実習
		17:00	学長 山崎 純一 先生との会談
		18:30	歓迎の夕食会(蒲田 鳥良) :12年度河南科技大学訪問者と共に
10月10日	水	9:00～ 10:00	感染実習
		11:00～	静岡県三島市へ(静岡がんセンターへ)
10月11日	木	11:00～ 15:30	佐倉病院 看護部紹介 ランチ :副看護部長3名 病棟師長3名とともに 院内見学 脳神経外科・内科病棟・一般外科病棟・産科病棟・小児病棟 救急外来・救急病棟・一般外来・化学療法室・
10月12日	金	9:15～	理事長 炭山 嘉伸 先生との会談
		10:00～	記念館見学・大森病院の外観見学・写真撮影
		12:00～	ランチ
		13:30～ 16:30	大森病院 河南科技大学臨床医学院の紹介(看護部長はじめ副部長、師長20名) 看護部紹介 院内見学 消化器外科病棟・個室病棟・救急外来・救命外来・化学療法室(外来)
10月13日	土	11:00～ 12:00	修了式 写真撮影
		19:15	送別会 木曽路
10月14日	日	10:55	成田(MU272便)

東邦大学看護学部研修感想文

祝暁宇 瀋陵 袁景茹 趙傑剛

2012年10月7日から14日まで、非常に運がよくて、ほう院長先生の派遣により、私達四人が日本、東邦大学看護学部にて一週間の研修生活を送ることができました。研修を振り返って見ると、充実したスケジュールにより、感動と収穫の多った一週間でした。研修成果を次の仕事と教育に繋がるために、私達の感想を次のようにまとめます。

まず、高木看護部長をはじめとする先生方が私達を暖かく迎えることに対して、深く感謝します。短い期間ですが、内容豊富なスケジュールを組んでいただいたお蔭で、看護学部の教育概要と附属病院の医療環境及び日本文化に触れることができました。それだけではなく、理事長、学長、医学部長などにお目にかかる機会をいただいたことにより、いままでの看護だけの交流を両大学間の交流へと発展する運びとなり、ほんとうによかったと思います。大学の資料室に、建学当時の新聞に載せた創立者である額田豊・晉兄弟が書かれた中国との友好が大事であるという記事を読んだ時、長い歴史を持つ東邦大学には日中友好の伝統が伝承されたことに感動しました。

今回の研修はとても貴重な機会であり、また、国際交流の一環であることがよく分かり、積極的に真面目に勉強しようと心構えをし研修生活に臨んでいました。また、熟練した日本語能力を持ち、日本文化に馴染みの深い趙傑剛さんのお蔭で、コミュニケーションの不十分による誤解や過ちがなく、研修生活をスムーズに進めることができました。また、先生方と英語で会話をするにより、自分達の眠った英語力を磨くことになり、楽しかったです。

日本に行く前に、日本人が勤勉であると言われていたので、よく働く日本人というイメージがありました。しかし、看護学部の事務局と実験室及び大学病院などで感じていた職員が仕事に対する熱意と真剣さが私達の想像を超え、勤勉と真剣というほんとうの姿を見ることができました。

歓迎式典の時、出野先生に東邦大学看護学部の教育概要を紹介していただきました。学生の人間性の教育において、体験学習を重視するカリキュラムがとてもいいことだと思います。また、大学の先生も学生の臨床実習指導を行うというのはとてもいいシステムだと思います。豊かな人間性を持つ学生を育成するために様々な努力には感心します。

感染制御学の実験室において、小林先生の講義を通して、日本の院内感染制御について少し理解することができました。それだけではなく、小林先生、金山先生のご指導の元で、三種類の手洗い方法の効果を比較する実験と自分の鼻腔常在菌の培養を自ら行ないました。これらを通して、院内感染予防についての認識が深めることができ、看護教育の中に院内感染制御学が必要であると考えようになりました。また、2名の患者の咳痰の抗生物質への感受性実験も見せていただき、16時間以内で、サンプルの細菌名と抗生物質への感受性が詳細に示してくれました。大学の実験室なのに、PHONEX100という凄い器械が設置されていることが驚きました。

佐倉病院と大森病院において、私達達は脳神経外科、消化内科、呼吸内科、ICU、VIP病棟等を見学させていただきました。先進な設備、入念な設計、職員の笑顔など、患者中心という理念がいたるところ反映されていることを実感しています。病院見学中に、80歳を超えた高齢者が一人で受診されていたところをよく見かけました。高齢者社会の日本を実感するとともに、年配者を配慮しながらの環境が整備されていることが感心しました。たとえば、受付などの高さが異なるカウンター、手洗いなどの安全

保護措置、廊下にきれいに整理整頓された車椅子と担架など、すべて患者への配慮と患者を大事にすることをもの語っていると感じました。

電子カルテも本院より進んでいます。医療関係者が持っている端末と患者さんのバーコードを利用して、与薬などの間違いを予防することがとても効率的で有効的に医療事故を予防するシステムだと感心しています。

患者中心の理念が大森病院と佐倉病院の診療システムにも反映されています。夜間に入院必要の患者さんを一時的に救命救急センターに入院し、次の日病棟に転入するというのが、急患により入院患者の睡眠が邪魔されることを避けられるし、夜間の病棟看護師が急患により手が足りなくなることがなくなり、ケアの質が保証されることに繋がり、とてもいいシステムだと思います。

一週間という研修生活の中、高木部長を始めとする先生方々、事務室の小丹課長、中澤さん、大森病院と佐倉病院の看護部のみなさんなどたくさんの方々にたいへんお世話になりました。みなさんの優しさと病棟見学時の看護師達の笑顔はとても印象的でした。お蔭さまで、とても収穫の多い一週間でした。また、こちらの都合によりスケジュールの調整など無理にお願いしても、快く調整していただきました。事情により静岡県立がんセンターに行くことになりましたが、その往復の新幹線の切符まで負担していただき、ほんとうに感謝しております。12月には今回の研修を通して学んだことをテーマにして、病院の職員を対象にして、報告会を予定しております。できるだけ多くの職員が東邦大学の素晴らしい医療を理解してもらい、こちらの医療と看護の質を高めるようにしたいと考えています。

最後になりましたが、お世話になった東邦大学の皆様に心より感謝を申し上げます。また、このような友好交流が末長く続けていくことをお祈り申し上げます。

研修風景



趙先生による河南科技大学の歴史の講義



おみやげの牡丹の大皿



歓迎会の際の集合写真



感染制御学の講義



山崎 純一 学長との会談



額田記念館の見学



高松 研 医学部長との会談



佐倉病院の見学



佐倉病院の皆さんとの会食



佐倉病院の前で



大森病院の見学



大森病院の前で



修了式

2012 年度 国際交流センター委員会

委員長	近藤 麻理
副委員長	松永 佳子
委員	岡田 敦子
	角田 ますみ
	富岡 由美
	佐山 理絵
	天野 里奈
	三條 真紀子
	中澤 千佳

2012年度

東邦大学看護学部看護学科・河南科技大学臨床医学院

国際学術交流プログラム研修報告書

発行日 2013 年 2月 7 日

発行 東邦大学看護学部 国際交流センター委員会

〒143-0015 東京都大田区大森西 4-16-20

TEL 03 (3762) 9881